

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月31日

学校法人織田学園
幼保連携型認定こども園
やよい幼稚園

1. 本園の教育目標

元気な子	体を動かして夢中で遊ぶ子 生活習慣の身についた子
やさしい子	誰とでも仲良く遊ぶ子 動植物をかわいがる子 自然に目を向け美しさや驚きを感じる子
がんばる子	目標に向かって最後まで取り組む子 良い悪いの区別が出来る子 自分の気持ちを素直に表現できる子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

『子どもの育ちを捉えるための記録とそれを生かした保育実践』 評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園や自分自身の保育を見る目を養い、施設の改善、保育を・教育内容の改善に主体的に取り組む。
--

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育計画	B	保育に関するアイデアを常に気にかけて実践することができた。
2	保育の実践	B	子どもの健康と安全、また個々の子どもに応じた適切な援助や指導をしようと心掛け、実践することができた。
3	教師間のチーム力	A	学年やクラスに関係なく、子どもたちにはもちろん、職員間でも温かい声掛けができた。
4	保護者との連携	A	子どもの個人差によって差別することなく、保護者とも連絡を取り合い、意思疎通を図り、良い雰囲気づくりを心掛けた。
5	地域との連携	B	コロナ禍で地域との交流（イベントへの参加等）が難しかった。地域の方達や来園者にはいつも明るく挨拶等をして対応できた。
6	園内外研修の充実	B	リモートでの研修もあったが昨年度より参加することができた。
7	教職員としての義務履行	A	やよい幼稚園の職員として子どもたちの良いお手本となり、恥じない行動ができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	教育目標や重点目標に基づき、子どもたち一人一人を大切にした保育・教育ができた。また、さらなる保育・教育活動への課題が明確になった。子どもたちは日々の保育活動や行事等を通して様々な経験をし、それぞれに大きな成長を見せてくれた。教師の言葉かけや環境構成が大きく影響するので、より一層の工夫をしていきたい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
環境構成	個々の子どもに応じた適切な援助や、子どもが意欲的に遊べる環境（人的・物的環境）構成を工夫する。子どもの姿や何が育っているのかを読み取り、教師の願いも併せてどのような援助が必要なのかを常に考え保育する。
食育	より一層、栽培園での野菜づくりや食育に対して興味・関心が持てるように子どもたちに指導し取り組んでいく。
幼小接続	地域の小学校に関心を持ち、子どもたちの発達等の状況を踏まえつつ『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』をイメージしつつ、豊かな教育活動が展開されるように工夫をする。

6. 学校関係者評価委員会の評価

本園の自己評価の内容についてご意見、ご感想をお聞かせください。